

# 帰国研修員との交流(第2弾)

## インド旅行記(バセンタさん愛娘の結婚披露宴に参加)



2016年度「下水道システム維持管理」研修コースに参加

研修コースリーダー : 末田 元

(公財)北九州国際技術協力協会

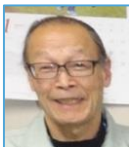
2017年10月30日

# 経緯

## バセンタさん（インド帰国研修員）より 愛娘の結婚披露宴に招待されインド旅行を計画！

前号で紹介しました2016年度：JICA研修「下水道システム維持管理」コースの末田コースリーダーと帰国研修員との交流第2弾です。バセンタさんとのメール交信の中で彼女より愛娘の結婚披露宴の招待を受けインド旅行が実現しました。下記メール交信は前号で紹介したものを抜粋しました。

2017/4/11



メール受け取りました。ありがとうございます。私からの回答です。  
水質汚濁防止法の英文は、リンクしているURLを見てください。水質汚濁防止法(第3条)で排水基準のことが述べられており、実際の基準値は総理府令(第3-1条)で定められています。  
しかし、BOD、COD、SSについては福岡県の条例でより厳しい基準が下水処理場に対して課せられています。具体的な数値については、添付資料を見てください。もし、私の説明で不明な点がありましたらメールをください。仕事が順調にいくことを願っています。

2017/4/11



迅速な回答を有難うございました。有益な情報で大変助かります。  
インドの基準値が非常に厳しいので他の研修員にも相談していました。  
**実は、私の娘が6月10日に結婚式を挙げます。**  
**招待状をお送りしますのでインドを訪問し是非披露宴に出席していただきカップルを祝福して下さい。 DEWA MATA**

# インド旅行の手続き完了

## ～結婚式招待状～



## ～旅行日程～

- 6月7日 出発 (6月8日インド現地着)
- 6月8日 バセントアさんと再会
- 6月9日 コインバートル市浄水場見学
- 6月10日 結婚式(新婦側の場所で)
- 6月11日 下水処理場予定地ほか見学  
下水処理場見学(Pollachi市)
- 6月12日 結婚披露宴(新郎側の場所で)
- 6月13日 高原都市(1,000m以上)で避暑
- 6月14日 インド発(6月15日帰国)

# インド国内の移動

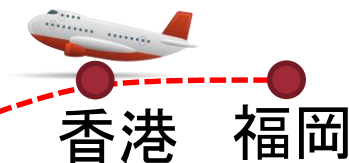
6/8 バセンタさんと再会  
6/9 浄水場見学  
6/10 結婚式

6/11 処理場建設場所と  
下水処理場見学

6/13 高原都市(1泊)

6/12 披露宴

## TAMIL NADU Location Map of Rameshwaram



香港 福岡

離日



今回のインド訪問は、個人的に旅行計画したものです。  
旅程の途中でインド上下水道施設の現状を見学しました。

## 6月8日 バセンタさんとインドで再会

インドに行く前、バセンタさんからのメールで「インド料理はとてもスパイシーで末田さんの口に合わないかもしれない。口に合うようなものを考える。」とのことでしたが、私から「好き嫌いはないので、皆さんが食べているものを食べたい。」と返事をしました。

ページ下の写真は主に朝食です。ぱらぱらご飯やかんのような（甘味のない）米蒸し饅頭、小麦粉の生地をナンの様に焼いたものや揚げたものなどにスパイシーな数種類のたれを自分の好みで混ぜて右指で食べるという食事でした。インドの人々は多分このような食事を毎日しているのでしょうか。私自身このような食事に抵抗はありませんでしたが、夕食の食堂で魚のフライチップを食べたときは一息つきました。

写真にあるようにバナナの葉をお皿代わりにしている場合が多くありました。理由を聞くと、バナナの葉には抗菌作用があるからだということでしたがはっきりとは分かりません。



# 本場インド料理の 品々



# 6月10日 結婚式会場



結婚式場

音響設備



会場準備中



結婚式前日の親族  
(バセンタさんの実家)

## 6月10日 結婚式(11時からスタート)

結婚式はバセンタさんの生まれ故郷であるコインバトル市で行われました。新婦側（バセンタさん側）の主催です。インドの結婚式は三日三晩続くお金のかかる行事だと聞いていました。しかし、参加者が1,000人を超えるということを除き大げさな結婚式ではありませんでした。

11時に開会のあいさつがありその後関係者が讃美歌（？）を歌い牧師さんの話が始まる。牧師さんはタブレットを使い聖書の一節を引用して説教を行う（時代は変わっていつているのだな～）。説教終了後新郎新婦が結婚書類にサインをし、その後ウエディングケーキカットです。日本のタワー型の大きな模造品のケーキと違い、3段重ねですが本物のケーキです。結婚式は12時前に終了しました。約1時間の結婚式でした。

その後、参加者が新郎新婦にお祝いの言葉やプレゼントをするために登壇。プレゼントを渡した後新郎新婦と一緒に記念撮影。これが次から次へと延々と続きます。私は14時頃にプレゼントを渡し会場を後にしました。皆さんそれぞれ自由に帰っていきます。多分遅くまでかかったことでしょう。式の途中で停電というハプニングがありました。よくあることのようにです。私の滞在中にも数回の停電がありました。







参加者からのお祝いの後、記念撮影

## 6月10日 結婚式(食事)

プレゼントを渡し終えた人、これから渡す人で時間がある人は式場の隣に用意された場所に行き昼食をとります。昼食の場にはいろいろの料理ブースがあり、ベジタリアン用、ノン-ベジタリアン用と区別されています。食事の種類は非常に多く、食事客でごった返しています。

バセンタさんの76歳のおじさんが言うに、見栄のため多くの参加者を呼ぶようになりこのように多くの食事を作ることになる。参加者は食べきれないのでてんこ盛りに料理を皿に取り多くを残してしまう。その結果多くの食事が捨てられてしまう。お金がかかるだけではなく非常に無駄なことがこのような結婚式で行われているのが現状だよ。見栄をなくし実質的な結婚式をしなければいけないのだが、と嘆いていました。

昼食とは別に、早めに来る参加者のために朝食が準備されます。大きな車庫のような場所に長テーブルが設置され、その上に料理が入ったステンレスのバケツが6個用意されています。備え付けられているプラスチックの皿に好きなだけ（私はあまり量は取りませんでした）盛って食事をしました。



昼食サービス係



昼食風景



昼食の準備



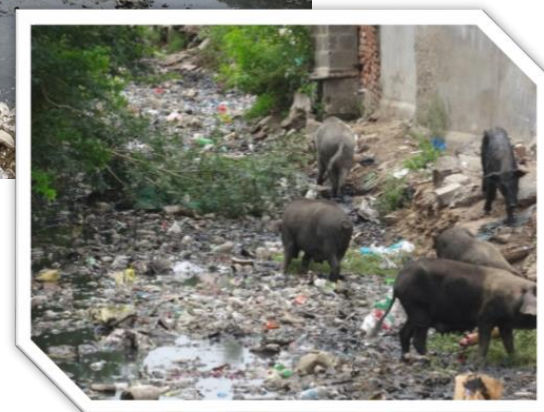
朝食の提供

## 6月11日 処理場、ポンプ場予定地見学

結婚式への参加を決めたとき、バセンタさんに「インド滞在の間、数か所の下水道関連施設の見学をお願いしたい」と要望をしました。私の要望を組み入れていただき、浄水場1か所、下水処理場1か所、下水処理場・ポンプ場建設予定地の見学をすることができました。

ポラチ市では数か所のポンプ場と処理場予定地を案内してもらいました。処理場は来年に完成することでした。ポラチ市内を流れる川で環境状況が悪いところは右写真に示すような状況です。5頭余りの豚がゴミ（餌）をあさっている状況でした。

このような状況を改善するため、外国からの資金援助を得て下水道整備をしているとのことでした。ポンプ場予定地ではメディアの取材を受け、私から「下水道施設の建設は資金援助が得られることもあり問題なく事業実施ができるが、出来上がった後の施設に対しては維持管理に多額の費用を要す。しかもこの資金が永久に必要となる。収入対策を考えることが非常に重要。」などの話をしました。



ポンプ場予定地での  
メディア取材

稼働している下水処理場の見学もしました。標準活性汚泥法という日本では非常にポピュラーな処理方式を採用しています。処理能力は1日当たり約7,000m<sup>3</sup>で、5名で3交代の24時間勤務をしています。

見学時には担当者が1名で運転管理をしていました。見たところ汚泥処理がうまく行われていないようで、このためか処理水質はあまり良くありませんでした。

下水処理で一番大事な汚泥の最終処理には汚泥天日乾燥床を使っていました。暑い国ですので、汚泥の天日乾燥はうまくいくのでしょうか。しかし、8床ある乾燥床の一つだけしか使われていないようでした。このことも処理水が悪い原因ではないかと思いました。



汚泥天日乾燥床



流入下水



下水処理場



下水処理場

## 6月12日 結婚披露宴

披露宴は新郎側の主催で、マドゥライ市のホテルで行われました。参列者の人数は正確には把握していませんが、200～300人ほどでした。19時から開始で牧師さんの説教、複数の著名人（と思われる）の祝辞と続き19時30分ごろにウェディングケーキへの入刀です。その後約30分かけて新婦のお色直しです。お色直しが終わって再入場後、参列者からのプレゼント贈呈です。

プレゼントを渡した人は新郎新婦と一緒に記念撮影をし、食事が準備されている隣室に行きます。食事は壁際に並べられた料理を各自自由にとって食べます。立食です。アルコールは全くありません（これは結婚式の時も同じでした）。

私は21時頃に食事部屋から披露宴室に戻りました。まだプレゼント渡しが行われていましたが、その数は少なくなっており、21時30分にはほとんどの人がいなくなりました。お祝いをしてくれる人が徐々にいなくなり、最後は新郎新婦と親族のみが残されてしまいます。日本では新郎新婦の旅立ちを参列者全員の拍手や手のトンネルを作るなどして祝います。インドの最後は終わりの挨拶もなく新郎新婦と親族が少数で退室していきます。私から見ると寂しい終わり方でした。



披露宴のホテルにて



参加者



参加者からのお祝いをもらい記念撮影  
(20:00～21:30)

## (所感) 今回のインド旅行で感じた事

### 1. インドでの食事について

バセンタさんからのお誘いがあったとき二つ返事で喜んで出席することを伝えました。結婚式の準備で超忙しい中、私の宿泊場所、国内線航空券、見学場所の手配等々大変お世話になりました。現地では忙しい合間を縫って私を食事に誘ってくれましたし、育った家にも招待され食事を共にしました。下水施設などの見学では職場の同僚に案内役を頼んでくれており、至れり尽くせりのおもてなしでした。

食事は私のための特別なものでなく、一般の人が食べるところに連れて行ってもらいましたし、バセンタさんの家では集まった親族の方々とも同じ食事を味わいました（ここではブランデーがありました）。新郎の家でも親族と一緒に夕食を家の外でいただきました。すべてがスパイシーな料理でした。

このような料理づくめで毎日の生活を送っている人が、日本で研修を受けるわけです。食生活は精神的にも肉体的にも健康の源です。私が担当した研修員で食事が合わず体調を崩した人がいました。今回のインドでの食を経験し、研修員の食に対する悩みが少しは理解できたのかなと思っています。

7日間という短い間のインドの食事でした。好き嫌いのない私ですが、日本に戻ってきて刺身付きの家の料理を食べるとホッとしました。

## 2. 下水処理場とJICA研修について

稼働中の小さな下水処理場を見学しました。後の予定が詰まっているため、約30分間の短い見学でした。現場の運転操作員の方は一人で、その方が見学につき添ってくれましたが、説明は本部から来た技術者（建設予定地の見学から同行してくれた方）がしてくれました。

見学で感じたのは、処理水質がよくないことです。これは沈殿池にたまる汚泥の適正な引き抜きがなされていないことが原因だと思いました。沈殿池汚泥の引抜きがうまくいっていないのでは？と質問しましたが明確な回答を得られませんでした。

この処理場で気が付いた問題点、それらの対処方法を具体的に書いたレポートを作成しバセンタさんに送りました。バセンタさんからは、感謝の言葉と共にその処理場の関係者に伝達する旨のメールが届きました。

現在私が担当している開発途上国研修コースは「下水道システム維持管理」です。下水処理場に関していうと、きれいな処理水を安定的に出すためにはどのような維持管理が必要かということですが。

処理水質の悪いこの処理場のことを考えると、今回の処理場の勤務員のような方にも研修が必要と思われます。しかし、このような現場作業員はその地位、身分から研修への参加はむづかしいのかもしれませんが。

となれば、JICA研修を受けた研修員が帰国後に伝達研修をするようなことが求められますが、なかなか難しいのが現状でしょう。なぜなら、参加研修員の中で現場の経験、知識を持っている人が少ないし、現場経験を持っていたとしても伝達研修を受ける側の勤務員が伝達研修を理解できる能力を有しているかどうかも分かりません。

また、研修で受けた講義内容をこのような現場の具体的な問題とリンクさせ、現場状況を改善させるように勤務員を指導することができるのかどうかも疑わしいと思われます。

「下水道システム維持管理」研修では、下水処理過程における問題解決手法を具体的に学んでもらうカリキュラム構成にはなっていません。問題点はあまりにも多く、それらを一つ一つ取り上げ具体的に研修することは不可能だからです。従って、研修で学んだ理論的な知識を自国の問題点とリンクさせ現地に合った問題点解決策を探っていかなければなりません。

そのためには、研修員は問題に合わせた解決策を模索勉強しながらつきっきりで現場指導をする必要があります。このようなことが実際の業務の中で実施できるのかどうかも大きな問題でしょう。小さな一つの下水処理場の見学でしたが、考えさせられることが多くありました。

以上